

誌上写真展

中央大学ボランティアセンター主催
ボランティア写真展 2016 より



チーム熊本／足湯ボランティアの様子
(熊本県阿蘇郡西原村)

中央大学ボランティアセンターは10月23～27日のホームカミングデー期間中にボランティア活動の写真展を中央図書館1階展示スペースで行いました。5日間で約400人に来場して頂きました。今号では誌上写真展として開催します。

東日本大震災の発生から5年半以上が経ち、今年4月には熊本で、10月には鳥取で震度6以上の大地震が発生しました。時間が経つにつれ、それらに関するニュースを目にする機会は減ってしまっています。誌面を通して、活動地の様子と、学生の活動ぶりが、一人でも多くの方に伝わることを願っています。

◆中央大学ボランティアセンターの活動に関心を持った人は、下記にアクセスしてください。
中央大学ボランティアセンター(多摩キャンパス 6号館地下1階 学生課内)
TEL: 042-674-3487 / メール: chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp



面瀬学習支援/面瀬川ふれあい農園での子どもたちとの交流
(宮城県気仙沼市)



チーム防災/小中学生との避難所運営ゲームの様子
(東京都日野市)



はまぎくのつぼみ/公営住宅での交流会
(岩手県宮古市)

10月の写真展にはボランティアセンターに所属する6団体が参加しました。
活動地は東日本大震災の被災地から熊本地震の被災地、多摩地域など広範囲。
6団体のメンバーが活動の思いを発信します。

団体名: **はまぎくのつぼみ**
活動地: 岩手県宮古市



田中瑠海
(商学部経営学科2年)

震災から5年半が経ち、岩手県宮古市での私たちの活動には変化が生じています。

例えば、仮設住宅にお住いの皆様がお営住宅に移られることによって、新たに住まれた方と地域住民の方との交流をお手伝いするという活動を行いました。

時間経過に伴う現地のニーズ変化に対応するために定期的に足を運ぶことはもちろんですが、団体が継続的に活動できるような仕組みづくりを形成していけるよう宮古市の方々との信頼関係をさらに構築していきたいと考えています。

団体名: **はまらいんや**
活動地: 宮城県気仙沼市面瀬中学校仮設住宅



木村亘佑
(法学部国際企業関係法学科2年)

“はまらいんや”は中学校のグラウンド上に建設された仮設住宅で5年間、コミュニティ支援や寄り添いを目的とした活動を行わせて頂いております。

具体的には集会所でのお茶会やお宅訪問の中での傾聴などを行います。

震災から5年が経過した今、被災地において現在まで経た時間の大きさを決めるのは我々ではありません。

活動を通し、気仙沼において地域や個人が抱える問題や課題はますます進行・複雑化していることを感じます。

私たちはそれらの課題を正確に捉え、責任を持って関わらせて頂きたいと考えています。

団体名: **面瀬学習支援**
活動地: 宮城県気仙沼市面瀬地区



大谷夏子
(文学部人文社会科学部哲学専攻2年)

私たちは地区の小学校、面瀬小学校の子どもたちと一緒に、勉強、遊び、地域学習をしています。

活動に来る子どもたちはとても元気で、みんな毎日をただ楽しく過ごしているようにも見えますが、震災による家庭環境の変化、地域の変化は、子どもたちにはどうすることもできないところで確実にその生活に影響しています。

そのなかで、「お兄さん・お姉さん」のいる、普段と違った子どもたちの居場所であり続けたいと思います。

団体名: **チーム女川**
活動地: 宮城県牡鹿郡女川町



岩立文香
(文学部人文社会科学部心理学専攻2年)

チーム女川は、現地で町民の方々に震災当時のことや現在のまちづくりについてお話を伺い学ぶ活動と、都内で名産のさんまや帆立の炭火焼きを通して女川をPRする活動をしています。

女川町では^{かさ}嵩上げ工事が現在も続いているため、家を建てるのができず人口流出が続いていますが、「あたらしいスタートが世界一生まれる町へ。」という目標を掲げ、復興が進められています。

訪れるたびに変わっていく町を見ると、町民の方々が熱く語る未来がかたちになりつつあることを実感します。

団体名: **チーム熊本**
活動地: 熊本県阿蘇郡西原村



青野大志
(経済学部公共・環境経済学科3年)

4月に起きた熊本地震以降、実際に現地足湯ボランティアを行っています。足湯を通して被災者の方々とお話することで、ストレスを解消して頂いたり、ニーズをお聞きしたりする活動をしています。

初めはお互い緊張していたものが、足湯を通して和らぎ、話が進んでいき、また大学生という若い世代が活動することで多くの人に力を与え、笑顔になって頂けたと思っています。

今後も継続的に活動していくことが重要だと思っています。

団体名: **チーム防災**
活動地: 東京都日野市



中村亮士
(商学部経営学科4年)

日野市内の学校や自治会で、避難所運営ゲームや防災訓練を行っています。

いつどこで災害が起こるかは分かりません。どのように自分の命、大事な人の命を守るのか。訓練を経験して備えることは重要だと考えています。

活動する中で、「勉強になった。この訓練をたくさんの人に体験してほしい」という声を頂きました。私たちの活動を通して、そう思っただけのことをうれしく思うとともに、より多くの人へ「防災の大切さ」を伝えられるよう、今後も活動を継続していきます。